

別紙 4

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

主 論 文 の 要 旨

論文題目
氏 名感謝による恩送りを支える心理的メカニズムの解明
白木優馬

論 文 内 容 の 要 旨

私たちは、他者から親切にされたあと、その恩人に対して親切にすることで恩返しをする。そしてときには、別の第三者に対しても親切にすることがある。この行為は、恩返しに対比させて恩送りと呼ばれる。恩送りは、コストを支払って他者に利益をもたらす利他行動の一つの形態として位置付けられる。

これまで、自分にとっては損となる行動である利他行動を、私たちがどのようにして進化的に獲得してきたかを明らかにするために、主にシミュレーションを用いた研究がおこなわれてきた。その結果、各種の形態の利他行動が、その送り手自身の利益になるメカニズムが明らかにされてきた。しかし、恩送りという利他行動に関しては、送り手自身の利益になる条件が限定的であり、恩送りが進化的に獲得される可能性が低いことが示されてきた。一方で、現実社会においては、恩送りの実例は数多く存在する。つまり、恩送りに関する理論的予測と現実社会との間に乖離が存在している。

そこで本論文は、現実に私たちが恩送りをおこなう理由を明らかにするため、恩送りが生起するまでの至近的な心理的メカニズムの解明をおこなった。これまでの研究では、利他行動の受け手の感謝が恩送りを駆動する重要な要因であることが明らかにされてきた。その一方で、感謝による恩送りの促進という現象を支える詳細な心理的メカニズムについては未検討な課題であった。本論文は、利他行動の受け手に着目し、ある利他行動が、受け手の認知、感情、動機を介して新たな利他行動である恩送りを生起させるまでの一連の心理的メカニズム解明するため4つの実験を実施した。

本論文は6章から構成される。第1章では、恩送りを含む利他行動に関する先行研究と感謝に関する諸領域の先行研究をレビューしたのち、恩送りの心理的メカニズムを解明する上で未検討な課題を指摘した。具体的には、(1) 恩送りの心理的メカニズムに感情的影響を考慮する重要性の確認、(2) 利他行動を享受した受け手に感謝が喚起するメカニズム、(3) 喚起した感謝が新たな利他行動である恩送りを促進するメカニズムの三点である。以下の第2章から第5章では、これらの課題を解決するための実験結果を報告した。

研究1(第2章)では、人の利他行動を駆動する代表的な二つの基盤の影響について比較した。人は、感謝のような感情的反応に基づいて恩人への恩返しをすると同時に、自己利益を計算し、周囲からの評判の良し悪しの情報を参照して他者に対して利他行動をするか否かの決定をおこなう。ここでは、利他行動を駆動する感情的基盤と認知的基盤のそれぞれに基づく行動が葛藤する状況において、人がどちらの基盤を優先した行動を取るかを検討した。その結果、利他行動に対して感情的基盤が与える影響力の強さが明らかとなり、恩送りの心理的メカニズムにおける感情的影響の重要性が示された。

研究2(第3章)では、直接互惠行為と恩送りの両方を促進する感情である感謝を喚起する要因について検討した。利他行動の受け手には、感謝と同時に、直接互惠行為のみを促進するネガティブ感情である負債感も喚起する。先行研究では、二つの感情を個別的に扱ってきたため、喚起要因が混同されているという問題があった。そこで、ここではそれぞれの感情を喚起する要因を検討した。その結果、他者から受けた利他行動に伴う価値は感謝を喚起し、その恩人が負担したコストは負債感を喚起するという、感謝と負債感の喚起メカニズムが明らかとなった。

研究3(第4章)では、なぜ感謝が恩送りを促進するのかを明らかにするため、感謝の喚起によって駆動される動機に着目した検討をおこなった。関係性欲求(Need for relatedness; NFR)が充足すると、人は再び他者との関係を形成しようとして利他的になるという知見に着目し(Pabey et al., 2011)、感謝が関係性欲求を充足させることで利他行動を促進するという媒介モデルを検討した。その結果、予測は概ね支持され、感謝による恩送りの背景には他者との良好な関係を希求する動機が存在する可能性が示唆された。

第5章では、感謝の喚起が社会的ネットワーク認知に与える影響から、感謝が恩送りを促進するメカニズムの解明を試みた。研究4では、ポジティブ感情が社会的ネットワークの認知を歪めるという知見(Casasciaro et al., 1999)に着目した。ネットワークの中に関係性が多く存在する場合、恩送りのような利他行動が回り回って返報される可能性が高くなる。ここから、利他行動の返報に対する期待が感謝による恩送りの背景に存在する可能性について検討した。具体的には、社会的な感情であ

る感謝の喚起が、社会的ネットワークの中の関係性を実際よりも多く認知させるかを検討した。実験の結果、予測とは逆に、感謝は正確な社会的ネットワークの想起を促す感情であることが示された。ここから、感謝が喚起した際に促進される恩送りは、返報に対する期待によって生じる可能性が低いことが示された。

第6章では以上の研究知見をまとめ、恩送り研究の領域と感謝研究の領域のそれぞれに対して本論文が解明した恩送りの心理的メカニズムがもたらす意義、および全般的な社会的意義についてまとめたあと、今後の課題および展望について議論した。

